

議会は真の立法機関を目指せ

= 北海道町村議員研修会に参加 =

持続可能な 新たな地域政策を

令和年度最初の北海道町村議長会主催の議員研修会が6月25日、札幌コンベンションセンターで開催され、2名の講師の講演を聴いた。2人とも人口減少社会の将来を危惧しており、最初に政治評論家の有馬晴海氏は「どうなる？今後の日本政治」の演題で話をされた。政治とは生活の事、経済とはお金の事。議員には、政治経済の見る目を育て、生の声をぶつけ質問力を身につけ、ネットワークを広げる事が必要と力説された。



有馬晴海氏

次に、中央大学名誉教授の佐々木信夫氏は



佐々木信夫氏

「地方は変われるか、議会はどうか変わるか、自治体をどう変えるか」の演題で、これからの議会、議員のあり方について語られた。人口の絶対的減少と少子高齢化や、極端な大都市偏在と地方過疎が同時に進行している。また、生活に関わる民需減少、店舗等の撤退が進む中で平成以降、歳出と税収の差が特に拡大し現在、国と地方で1400兆円を超える借金をしている。地方議会には、危機感を持って、チェック機関から本来の立法機関になり、持続可能な新たな地域政策を立案すべきと話された。

視察調査

翌26日には2箇所の視察調査を行い、国立の寒地土木研究所を訪問した。北海道土木試験所として設立された我が国唯一の寒地土木技術の試験研究機関で、70年の歴史がある施設。積雪寒冷地の土木技術に関する研究開発、技術指導、成果の普及を目的としている。十勝川千代田実験水路での増水時の対応実験、高



我が国唯一の寒地土木技術研究機関

速道路等の緩衝型ワイヤロープ式防護柵の研究、十勝型事故防止のための交差点の検証等の説明を受け、実証実験をしている施設の視察をした。その後、とちか酒文化再現プロジェクト「十勝晴れ」等の日本酒醸造でお世話になっている小樽田中酒造の「亀甲蔵」へ。音更の米と音更の水を使ったお酒造りの説明を受けた。

編集後記

令和元年、最初の定例会が開催されました。私も含め、今年4月に初当選した議員も一般質問に臨みました。皆、慣れない雰囲気の中、緊張感に包まれた議場で登壇しましたが、どの新人議員も元気に一般質問しました。町側の答弁を聞き再質問にも悪戦苦闘しながらも、時には鋭い再質問をし、その姿を見た先輩議員達からは、大変に活気のある定例会だったとの声を頂きました。また、先輩議員達の一般質問を拝見し、質問の仕方一つで町側の答弁が変わることを学び、貴重な経験を積むことができました。今後も新人議員一同、互いに切磋琢磨し、日々成長を続け町民の声に耳を傾け、より一層町の発展のために努力します。

編集委員 小澤直輝